

国立中興大学 長期派遣留学帰国報告

生命科学部バイオサイエンス学科

3年 竹本好花

私は2023年9月から翌年の1月までの5ヶ月間台湾の国立中興大学に留学しました。高校生の頃にプログラムで台湾を訪れた経験があり、過ごしやすそうな国だと思ったこと、中国語を習得したいと思っていること、興味のある学部があることなどを理由に台湾を選びました。私はバイオサイエンス学科に所属していますが国際農業にも強い関心があり、英語力も伸ばしたいと考えていたので、すべての授業が英語で行われる国際農業ビジネスの学科で学ぶことにしました。

渡航直前まで部活に参加していたのであまり心を切り替える余裕もなく、気がついたら出発当日になっていました。初めての海外での長期生活、言葉の壁など不安なことも多かったです。それ以上に楽しみな気持ちが大きかったです。台北から大学のある台中に移動し、ルームメイトとの共同生活が始まりました。ルームメイトは全員日本人で海外留学ならではの文化の違いを感じながらの生活というわけにはいきませんでした。みんな良い人たちで協力して部屋の清潔さを保ったり生活で困ったことがあったら助け合ったりと、快適な生活を送ることができました。ルームメイトとは何度か旅行に行きました。台湾中部の日月潭という大きな湖で自然を感じ、台南では歴史的建造物や美味しい食べ物を堪能しました。東側に行けなかったのが心残りではありますが、北から南まで行ったことで地域による気候と食べ物の違い、人々の性格の違いにも気づくことができ、より有意義な留学にできたと感じています。また台湾の人々は本当に温かく、困っている時に快く手を差し伸べてくれたり、飲食店でサービスをしてくれることもありました。自分がマイノリティーとして生活する中でどうしても一人では困ることが出てきますが、その優しさに何度も救われました。

一つの授業で3時間(50分×3)が基本で全部で18週間ありました。そのため農大での生活より最初は長く感じられましたが、1時間に一回休憩があったり、授業時間内でフィールドトリップに行けたりと、集中できて密度の濃い学習をすることができました。特にアグリツーリズム概論という授業ではフィールドトリップが3回あり、パッションフルーツ農家やマッシュルーム工場などを見学しました。別の授業では台湾で食べられている米を炊いて試食し、品種による味の違いを学ぶこともありました。フィールドトリップで行った米の試験場では日本のコシヒカリも栽培されていましたが、台湾の気候が合わず一際小さく弱々しかったのが印象に残っています。農業の現場を直接見てきたことで日々の買い物で台湾の生産者を身近に感じるすることができました。また天文クラブの活動に入り、星についての勉強会や天体観測に参加しました。台湾は山が多く夜には空いっぱいの星が見られました。

大学の授業の他にオプションとして語学センターの中国語の授業を取っていました。これは語学学校のようなもので、大学生に限らず高校生や社会人など年齢も背景も様々な人が世

界中から中国語を学びに来ていました。私はほとんど中国語を勉強したことがなかったの
で一番初級のクラスから始めましたが、先生の教え方が良かったことあり、3か月後には
日常生活に必要な最低限の中国語は話せるようになりました。3か月で2回文化体験の授業
があり、麻雀を体験したり原住民族について学んだりしました。台湾と中国の麻雀は少しル
ールが異なる点が興味深かったです。語学センターでは仲の良い友達ことができました。フィリ
ピンやマレーシア、エクアドル、トルコから来た語学留学生で、授業の後一緒に昼ご飯を食
べに行ったり、BBQをすることもありました。日常的に様々な国の人と関われる環境に身
を置いていて本当に嬉しかったです。

楽しいことが多かった反面、辛さを感じたことも多くありました。特に言語の壁です。学
科の授業は全て英語で行われていて、正規の留学生も多く台湾出身でも皆流暢に英語を話
していました。授業内容を理解するだけでも大変なのに、いきなりグループワークやプレゼ
ンが始まり、自分の意見を十分に伝えられない状況は辛かったです。語学センターの友人も
皆母国語ではないのに英語を使いこなしていて、話題に入っていけないことが多く悔しさ
を感じ泣きかけたこともありました。だからこそ必死でできるようになる方法を考え、試して
みたりしました。留学に行けば自然と伸びるのではなく、どこにいても自ら機会を掴んで実
践しなければ成長できないと気付きました。

私が留学して最も大きな収穫だと思っていることは、様々な価値観や考え方に触れたこと
で視野が広がったことです。中興大学では多くの出会いがあり、私はよく台湾に来た理由を
聞いていました。すると彼らはここに至るまでの人生を少し話してくれます。社会に出た後
に新しい言語を学びたくて来た人、別の大学に入った後にやりたいことを見つけて中興大
学に入り直した人など、回り道に見えるかもしれないけれど自分の好きなことにまっすぐに
生きている彼らが輝いて見えました。これまで何となく周囲によって作られた固定観念を持
っていて、こうするしかないという少ない選択肢しか考えてきませんでした。私は彼らの話を聞
いて「そんな生き方もあるんだ」、と多くの新しい視点を得ました。調べてみたらまだでき
ることがたくさんある、まさに“世界は広い”ということを教えてもらったのです。

留学中は大きなハプニングもなく、毎日が刺激的でとても充実した生活を送ることができ
ました。友人も増え、かけがえのない一生の思い出がたくさんできました。留学を乗り越え
たことで物事のハードルが少し低くなったように感じます。引き続き語学力の向上に努め、
また海外に挑戦したいという気持ちが大きくなりました。

↓マッシュルーム工場見学



↓パッションフルーツ農家見学



↓語学センターの友人



↓キャンパス内のガチョウ

